

エントリー名：舞鶴市立若浦中学校

活動名：Who are you?で語る
～主体性が高まり、自分の強みが伸びる学校～

解決すべき課題

1【生徒が主体的に自らを発達させていくことが尊重される環境の創出】
「丁寧な生徒との関り」と「与え続ける教育」は別物である。手をかければかけるほど生徒は自律できなくなり、自分がうまくいかないことを誰かのせいにしがちである。この現状を打破するためには、「OECD Learning Framework 2030」で示された「Agency（当事者意識）」を高める必要がある。そのためには「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する生徒」の育成が求められると考えた。

2【生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長を支える教育活動の実践】
日本の教育は、小学校から大学まで 16 年間もあるが、自分が何者で、どんな特徴があって、どんなときに幸せを感じるから、どんな職に就いて、どのような人生を送りたいか、そういうことをほとんど考えさせない。ほとんどの生徒は「Who are you?」と問われれば、名前しか答えることができない。将来の予測が困難な時代 (VUCA の時代) を幸せな状態 (ウェルビーイングの向上) で生きるためには、この質問に対し、「世の中にどのような貢献ができるのか」「なにを目指しているのか」等について自分自身を簡潔に魅力的に語れる生徒の育成が求められる。

目標 夢が語り合える学校となる

方針 生徒の主体性を育み、自分を知っている度合いを高め、自分のよさを深め、伸ばす

1 生徒の主体性を育むために、従来の教育活動を生徒主体にし、教師は支援（発達支持的生徒指導）に徹する。

2 自分を知り、自分のよさを伸ばすために、「総合的な学習の時間」「スピーチ活動」「日記」等を中心に取り組む。

活動内容

1「生徒の主体性」に関わって

(1) 学校行事等の改新（生徒で実行可能な教育活動はすべて任せ、主体性を育む）
【例】従来の体育祭を廃止とした。「全員が楽しむこと」をねらいとし、内容・計画・運営等のすべてを生徒が行う取組とした。

(2) 外部機関等の対応（教師が仲介せず、生徒や生徒会本部役員が対応することで、あらゆる学校教育活動に対する当事者意識を高め、主体性を育む）
【例】業者が学校への体操服の生産を停止したため、次年度から体操服が変更となる。代表生徒が業者と折衝し、次年度の体操服を選定する。現在、2つの候補があり、体育館でファッションショーを実施し、保護者アンケートも参考に最終決定する。

2「生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長」に関わって

(1) 総合的な学習の時間（さまざまなことに挑戦し、自分を知る）
1・2 年はそれぞれクラスでテーマを決める。課題解決へのアプローチの方法によるグループ編成で学習を進める。3 年生は個別の探究学習を行う。昨年度 2 名の生徒がこの学習を通じて、高等学校を決め、進学した。
【例】令和 6 年 2 年テーマ「現代の諸問題を解決」となった。戦争の記憶を風化させてはならないと考えた生徒 2 名が京都市内の小学校を訪問し、平和に関する出前授業を実施した。

(2) わくわくスピーチ・日記（自分の考えを声に出したり、書き出したりし、自分を知る）
テーマを自分で設定し、「異学年グループ」あるいは「学級内」で実施する。発表を聞くだけでなく、質問する時間を設け、質的な向上を図っている。終 SHR でスピーチ活動を通じて、考えたことや感じたことなどを日記として、アウトプットする活動も継続的に実施している。

取組課程

1「生徒の主体性」に関わって

(1) 学校行事等の改新
生徒主体の新たな体育祭は誰も経験したことがない取組であった。校長がそのねらいや教育的効果を語り、教員がそれを具現化するためには 1 年の期間を要した。だが、生徒主体の取組が増えた着任 2 年目、生徒会本部役員選挙に多くの生徒が立候補した。その頃より、すべての係や役割が立候補で決まるようになった。

(2) 外部機関等の対応
「自分たちの学校」とであると言う「当事者意識」が高まり、昨年度から授業研究会にも生徒が参加し、教育委員会の指導主事や他校の先生方と事後研究会で授業について話し合いを行っている。また、令和 5 年度本校の研究会発表会では、3 時間生徒だけで、迎え・案内・学校紹介・授業公開（探究発表）・テーマ討論会を行った。

2「生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長」に関わって

(1) 総合的な学習の時間
2 年生になるとグループごとに自分たちで講師を探したり、関係施設等を訪問したりしている。3 年生の個人探究は、大学教授の指導や大学生からのアドバイスを活用して、探究の質的向上を図った。卒業前には立志式（3 年代表生徒発表会）を開催している。

(2) わくわくスピーチ・日記
担任全員が先進校視察を行い「スピーチ」「日記」のポテンシャルについて共通理解を図った。生徒会が「スピーチ」の質的向上をねらい全校生徒に模範を示す取組を実施した。

活動の成果

◎日本財団 18 歳意識調査 第 46 回「国や社会に対する意識」

・「自分には人に誇れる個性はある」 若浦中 65% 日本人 18 歳 50%

・「自分は他人から必要とされている」 若浦中 65% 日本人 18 歳 55%

・「将来の夢を持っている」 若浦中 65% 日本人 18 歳 60%

・「自分は責任ある社会の一員だと思う」 若浦中 52% 日本人 18 歳 48%

・「国や社会に役立つことをしたい」 若浦中 75% 日本人 18 歳 60%

◎第 7 次舞鶴市総合計画（2023-2027）における数値目標

・確かな学力の育成「授業がよくわかりますか」 2026 年度目標 85%以上達成

・豊かな心の育成「自分にはよいところがありますか」 2026 年度目標 80%以上達成

・一人ひとりを大切にした学校教育の推進「不登校出現率」 2025 年度目標 6%以下達成

◎学力向上 2 年間非認知能力の向上を重点的に図った 3 年生に顕著な学力の向上が見られた。生徒が授業は教師だけで創るものではなく、自分事としてとらえる意識が高まった。そのことで学習意欲が高まり、授業の質が向上した。

◎修学旅行 3 年生徒の要望により修学旅行の内容を変更した。受け身ではない発信型の平和学習を実施した。生徒の意見が尊重される環境があると生徒が認識していると考えてる。

◎進路希望 直近の 5 年間、3 年 4 月の進路希望調査で地元の公立高校を志望する生徒割合は、30～50%であったが今年度は 10%となり、例年より多様な進路先を希望した。生徒がチャレンジングになった。生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長を支える教育の成果である。

◎生徒会 令和 6 年度 1 学期、生徒会主催で 18 の取組を実施した。前年度踏襲するものはなかった。生徒はブラッシュアップすることが当たり前であると考えている。新たな取組について教職員が継続的に価値付けを行ってきた成果である。

◎教師の変容 変化の激しい時代は学校の改新が求められる。それには教師の意識改革が絶対条件である。教師が新たな取組で生徒が変容したことを認識するまでに時間はかかったが、現在は生徒の小さな変化を見逃さず、価値付けし、それを喜び合いながら教育実践を進めている。それにより、生徒一人一人の成長やよりよい変容が教師の働きがいとなる学校となった。